キレイで氣持がよい

羨しがられる 大島の環境衛生

四山支部大島連合分会（戸数四三〇戸）は、昨年十一月に熊本県の衛生モデル地区に指定された。これは同分会がこれまで、環境衛生問題にジツクリ腰をすえて取組んできた努力が実つたわけだが、伝染病患者もこの二、三年は皆無だし、夏でも蚊帳をつらずに生活ができる快適な環境をつくつている。三川支部楓分会もいま衛生問題に真剣に取組んでいるが、大島をまず手本にしようとこのほど同分会を見学、懇談会をひらいてこんごともに進むことを誓い合つた。

便利ネ…と消毒瓶に感心の楓町の主婦

去る六月二十一日楓分会主婦会の富永さんら十六名。ついで二十二日には五島さんたち二十八名が大島を訪れた。

大島地区は三つ分会に分れているので、各分会の主婦たちが、三班に分れて案内したが、屋内の炊事場、便所はもちろん、押入れのなかまで調べるという熱心さ。また屋外は下水、大溝、塵箱のなか、残飯処理、糞尿処理さては塵芥焼却場の問題ひいては家の構造にまでおよんだ。見学を終えたのち懇談会を行つたが、意見、感想を拾つてみると

A　とても掃除が行きとどいている。これは簡単で平凡なことですが、なかなか実行されないことです。

B　不潔になりやすい便所、炊事場、下水がきれいです。見学のためのおざなりでないことを知りました。

C　塵箱には各人の氏名がはつてよく整備されている。これは各分会の労力の提供と斡旋のおかげだとわかりました。

D　各分会にある集会所を主婦たちの輪番制で掃除しているのは集会所が一部の人の独占物でなく、親しみのあるものとしてうらやましい。

E　家具の整とんのしかたや炊事用具の使用、部屋の利用法などから生活水準が高いような気がする。

F　消毒薬の使い方が科学的だ。速効性と遅効性の薬品を使いわけ、勝手に消毒しても無駄が多いので共同でおこなつているのには感心した。

また地元大島の人たちは、「四山社宅は発電所のバイ煙で、とても苦しめられている。塵芥集積所の整理と大溝の整備や掃除、それに残飯整理と糞尿処理は伝染病菌をまきちらすハエ、蚊をなくするのにもつとも大切であり、急を要するものである。また海のそばだから海岸に打上げられる汚物の処理も、四山としてはまだまだ考えなければなりません。そしてさつぱつな社宅のオアシスとして、社宅の緑化、小公園つくりなどぜひ必要だと思います」といつている。

どしどし要求しよう

さいごに生活の方法が進めば衣食住がかわるのは当然だが、そのなかで住居の改造は社有物のため、日曜大工の手がとどかず合理的生活への意欲をはばんでいることがあげられたことは注目された。二日間にわたつておこなわれた交流は、こんごあらゆる場合に拡げることとし、つぎのような申合せをおこなつた。

(1)営繕工事に関心をもつてこんご私たちの要求をおしすすめる。

(2)環境衛生の改善に努力する。

なお、この交流で四山を見学した楓分会の主婦Aさんは

雑草がぜんぜん生えていません。私のところではどんなに掃除しても道にゴミが散りますが・ここは道も家の囲りもとてもキレイですね。びつくりしました。

主婦Bさん

ゴミが散つていないことと、集会所が毎日清掃されていることは感心しました。とにかく共同精神の力というものにひどく感銘しました。

また、この日案内した大島の主婦は

よその分会からみてもらうというのは、とても光栄です。ここは以前から共同精神が高いのです。道を掃除していても、ぜんぶの人が出てくるというくらい積極的です。

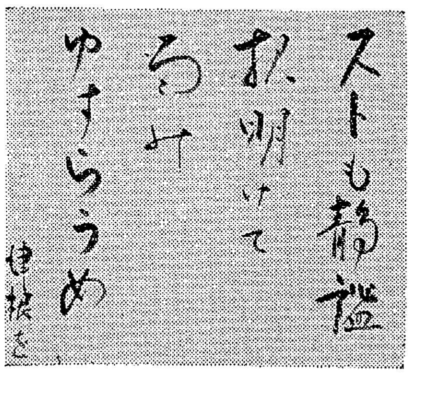
四山社宅の他分会の一主婦は、うちもまねたいともらしていた。

欲しい若い人達

〃円虹〃俳句サークル

サークルといえば各支部を通じて圧倒的に〃うたごえ〃が多いなかで、〃俳句サークル〃という独自な活動を地味にしかも着実にすすめているのが、この四山支部俳句サークル「円虹」である。サークルを結成したのが三十一年の六月。ほとんど組合員、家族が主体となり五十名あまりで発足した。その間、今日まで減つたり増えたりしながら現在約四十名になつているが、この人数はもう固定しているという。勤務の関係で三交替者が多く、いきおい句会は日曜があてられている。大体月に二回、うち第三日曜が主体的な俳句会になつている。このほか会員が方々に分散しているので、ずいじに各所で句会を催すことになつている。すでにサークル活動も三年目に入つてきて、この動きに刺激されてひまわり町の主婦たちや暁町の方でも発足の動きがあるほどだ。

サークルの前身である〃円虹句会はもともと田中常男さん（四山）が手がけてきたが、俳句運動も組合運動の一つの外郭協力体のなかで進めるのがほんとうではないか、と考えたのがサークルへ踏切つた動機となつた。田中さんは「労働者の感覚に立つているということで、サークルの性格にもつて行くのが本当だと思つて発足した」と述べている。ところが発足当時は他の俳句会から便乗主義だと心にもない非難が浴びせられたという苦難の道であつた。労働者であるという自覚から、詠う態度をハツキリと打出している……これがこのサークルの特徴であろう。そしていつも俳句会のなかで平和ということを主張しつづけているのも特色で、それあらぬか、例年原爆記念日に句会を催しているという真剣さである。サークル員の年令層は平均三十四才、青年層が非常に少い。このため今年は若い人たちの層へ運動をひろげてゆくことにとりくんでいる。毎月俳句誌「円虹」を発行している。とくに年にとくべつ二十句を出し合い円虹賞をあたえる制度もあり、会員同志の勉強に大いにあずかつている。そしてこの句を諸名作家に発送、俳壇全体の批評をうけ会の力をみてもらつている。


ストも静謐
ゆすらうめ

組合にとくに望むことは「サークル育成はよくいわれているが、具体的には少しも進んだ対策がとられていない。それに三鉱労組一本としてのサークルの統一、これは努力してもらいたい。せめて総合的な文芸雑誌ぐらい組合の手で発行してもらいたいですね」となかなか手きびしい（写真・田中氏）

うたごえの交歓

三川と四山で交流会

四山合唱サークルでは去る二十四日、支部二階の会議室で三川合唱サークルとの交流会を午後五時からおこなつた。

四山合唱サークルは今年三月に結成してまだ日があさく、同じころ結成した三川のサークルとあい通ずるところがあり、そのためいろいろな悩みも似かよつたところがある。四山のリーダー石橋さんと三川のリーダー横溝さんがたまたま会つて話をしたのがキツカケとなり、こんどはお互いに交流して手をとり合いすすもうということになり、こんどの交流会に発展したわけである。

交歓交流会がしらされると、本所宮浦、製作、水曜コーラスなどの各サークルも賛同、この交流会が意義あるように援助してくれた。

会場の支部会議室はモールでうつくしくかざられ、まず四山の仲間たちが壇上に立ちならんでつぎつぎと合唱を披露した。ついで三川の仲間たち、宮浦、製作とこの初の交流会を祝して、日ごろ練習したコーラスを心ゆくまでに発表して有意義な交流会となつた。コーラス発表ののちは座談にはいり、九州のうたごえ報告などをききこんどの交流を約して散会したが、これを機会にお互いの交流をさらにふかめようという気運が高まつてきた。

なお、この日の参加者は約七〇名であつた。

（写真は四山会場での交流会、歌うは四山のサークル）

巾を利かす双葉會

宇部の仲間を迎え懇談会

宇部興産労組と云えば、かつて首切り反対その他で五十三日ストを英雄的に闘い抜き、賛仰の的となつたが、そのご会社側の蹶起の巻き返しにあつて、ここ数年極度の低調にあえいでいる。これではならぬと真剣に組織づくりの問題がとりあげられ、去る二十日、執行部、決議機関、主婦会代表四氏が来牟、つぶさに三池の実態を見聞して帰られた。以下は三鉱主婦会幹部との懇談会から拾つた話題の数々ー。

出席者（敬称略）

宇部興産
西田　明　青年部副部長
石飛　茂治　代議員
藤田　千代　宇部労組主婦会常盤台社宅支部長
有吉よし子　同下の原社宅支部長

三鉱主婦会　十七名

西田　私たちがこんど大牟田に参りました目的は、宇部労組の組織強化、とくに婦人組織を育てるためにこちらの実状をいろいろきかせて頂き、参考なり指針にしたいと思います。

司会　ではまず順序として結成の動機、経過から始めて頂きましょうか。

妨害を排し結成

三鉱　六十三日ストの苦しい経験を通して、主婦も一緒に闘つたからこそ長期闘争をもち耐え、七％とはいえベース・アップもかちとれたのだということが、認識され、本腰を入れて炭婦協の結成にとりかかつたのです。会社の圧力は相当強く、集会のための社宅利用はまかりならん、炭婦協に入つた者の夫は首にするなど露骨な妨害工作にでてきました。

西田　うちの場合、会社が作つた双葉会という組織があり、これは多分に政治結社的な性格をもち、現に今度の衆院選では自民党の田中辰男を推したのですが、その婦人部という名目で婦人組織の面でも双葉会が巾をきかせ、組合の婦人部活動が伸び悩んでいます。

三鉱　三池にもそれと似た動きはありましたが、現在では主婦会一本にまとまつています。

西田　今はどうですか？

三鉱　現在では全然問題はありません。

宇部に欲しい主婦会

司会　次に組合との繋りの問題に入つて頂きましょうか。

西田　宇部の場合を先に申しますと、かつての六十三日ストの時主婦連合会が作られ、家族ぐるみの闘争で、結局首切りを撤回させ組合要求を通した。この輝かしい勝利により、組合が気をゆるめたその間に会社側は日経連のバック・アップの下に蹶起のまき返しにでてきた。スト中に既に再建準備会という第二組合的な動きがみられたが、その後三田村氏の民労会議への加盟頃には全労促進委員会の結成等組合分裂工作を推し進め、組合のたるみが頂点にきたとき、双葉会を作り、会長に製造副部長夫人をすえ、婦人部を通じて主婦の側にも手を延ばして来た。そこで組合側も主婦の会を作り、現在この両者の間にあつれきが絶えないというのが実状です。

有吉　私のいる社宅は七十一戸ですが、殆ど全部双葉会に入つています。もつとも心から双葉会を支持して入会している人は少いようですが…。

三鉱　お話を伺うと色々困難な事情があるようですが、然し組合員なり主婦の方はいわず語らずの中に理解していられるのではないでしょうか？だから組合がはつきりした方針を打ちだしてかかれば、何とかまとまりそうに思えるのですがー。

西田　現実にリードしているのはごく少数の人達で、会社、組合双方がそれらの活動家を選つている。然し、幹部の奪い合いでは本質的な解決は望めないので、どうしても組合の問題として主婦会結成を打ち出す必要があると考えています。

（ここで山下教宣部長から三池の実際について説明があり）

西田　色々参考になる話を聞かせて頂き有難うございました。結局何をやるにしても組合の力が弱くては問題にならないという事を今更ながら反省させられました。宇部に帰つたら皆さんのお話をよく伝え、ジツクリ組織づくりにかかりたいと思います（おことわり＝他にも日常活動その他の問題で話題は絶えませんでしたが、紙面の関係で割愛させて頂きます。　編集部）

三鉱　いまあなた方と同じ道を私たちは通つてきました。一人一人を着実につかんで行けば、きつとまとまると思います。

音楽で病院慰問

三川楽団サークル「コール・マイン」では、昨年にひきつづき今年も八代市の労災病院に音楽の慰問行をおこなつた。

同サークルでは去る二十一日十六名（全員）が大牟田を出発、八代に向つた。十一時すぎに現地到着すでに会場に予定されていた大広間には、病院側でマイクの設備や椅子の準備など用意はすべてでき上つていた。軽傷者はいち早く席を占め、歩行できない人は寝台で会場に運ばれるしまつ。

約二時間、つぎからつぎへと演奏がつづけられれば、患者のなかから飛入りがあつてステージに立ち歌う人も出てきた。

病院側では一回の慰問に大変喜び非常に感謝していた。

サークルではメーデー前夜祭や文化祭などに出演して、約半年かかつて金が集つたので慰安旅行を兼ねたものだが、折角旅行するなら病床にある仲間を励ましてやろうとこんどの慰問になつたものである。

（演奏するコールマイン）